

地域に根ざす学校経営の実践

— 生涯教育を指向した学校づくりをめざして —

三重小学校長 渡辺茂男

はじめに

この内容は、昭和58年度の学校経営研究会での発表に基づいて書いたものである。新前校長として三重小学校に着任してから、4年を終えようとしている。日ごろの実践をふりかえる機会を与えていただいたことに感謝しながら発表した内容を整理し、より多くの方々から御批正を乞う意図でまとめたものである。

「校長は、成すべき目標をしっかりふまえ、どういう学校にしたいという意図を、明確に打ち出すことが必要だ。100%の支持は得られないかもしれないが、反対を恐れず断固としてやるように」とは、先輩校長の諭された言葉である。私は、この言葉をはじめ、多くの先輩からいただいた教えを、日々の実践の指針として歩んできた。

幸いにして、三重小学校に着任するまで、「足利市の教育目標」設定の作業に参加し、これからは、生涯教育の考え方にたった学校教育のあり方を指向していくことであると痛感してきた。すなわち、学校の行う教育活動は、地域の教育活動である、町内や青少年育成会等の活動との相互補完の関係で組織されるものであるととらえ、地域のもつ教育力を重視した学校経営をすすめていくことを課題と考えたのである。

私は三重小学校着任直後、学校経営方針として教職員に、「三重の地域に根ざした教育を」を合言葉として提案し、学校新聞「つくし」でのあいさつでも、「先生方、父母の皆様、さらに地域の人たちの力が生かされるよう……（中略）……地域の中にある物的資源の活用もはかる努力を。」と呼びかけを行った。

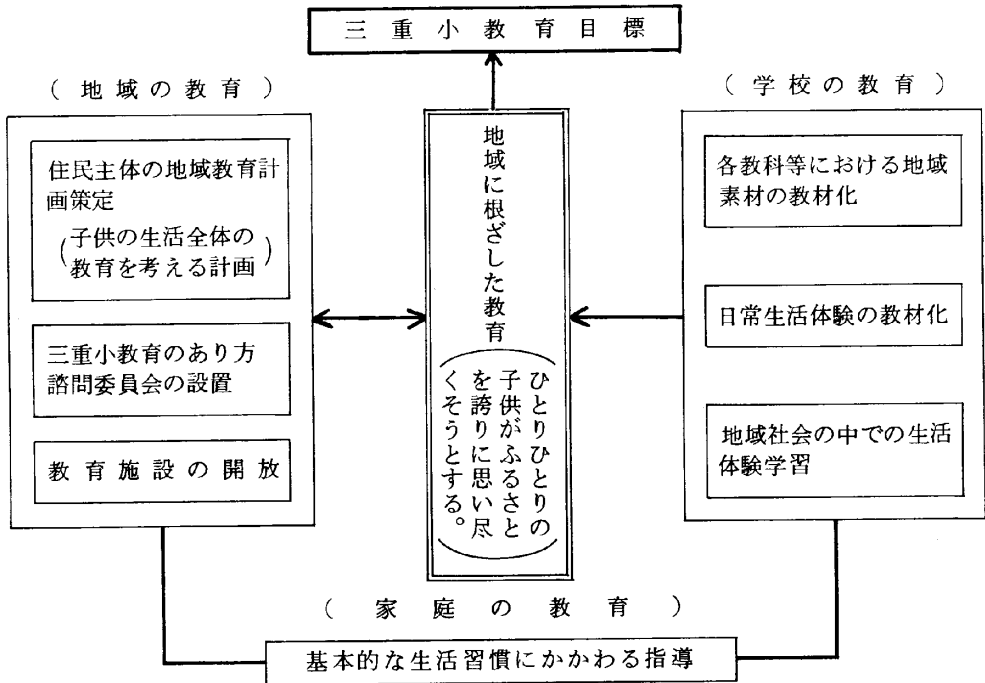
以下、三重小学校の教育を、地域に根ざした教育の視点から、その実践を記述することにした。

1 地域に根ざした教育の全体構想

地域に根ざした教育を推進していくためには、その背景となっている「足利市の教育目標」の基本構想や、設定経過に学ぶ必要があるので、職員研修の内容として「教育目標説明会」で学習した。また、日常の教育実践の中で、その必要性を実感するようすすめてきた。

第2年目に入って、地域総合教育への展望を明らかにするために、「三重小教育計画策定全体構想」を提案、全職員で協議した。

三重小教育計画策定全体構想



ここでいう地域とは、子供の生活領域を指し、子供たちに地域の良さを理解させ、地域をさらに発展させようとする意欲を身につけさせていくことによって、一人ひとりの子供が、ふるさとを誇りに思い尽くそうとする心情を育てることをめざしていくものである。

2 学校教育目標の改善

先の全体構想によって、子供の全体的発達を達成するためには、家庭教育、学校教育、地域社会での教育が受け持つ役割や分担を明らかにし、それらの有機的なかわりを明確にして取り組んでいくことが確認された。ならば、学校教育目標は、これらのもつ課題にこたえ得るだろうか。

そこで、学校教育目標の見直し、検討をするために、プロジェクトチームが発足した。そして、生涯教育の立場にたった三重小学校の教育目標の設定にふさわしい内容とするため、「足利市の教育目標」の児童期における達成目標に基づくアンケート調査（P. 99, 100の内容）を実施した。

このアンケート調査を実施するにあたっては、町内懇談会を開催。自治会長、社会教育振興委員、民生委員、青少年育成会長、老人クラブ役員をはじめ、PTA会員の参加を願った。こうした町内懇談会での調査が、学校教育目標の改善に役立ったことは、資料からも読みとれるところであるが、地域に根ざす教育推進への理解を深め得たと実感するところが多かった。

アンケートのお願い

57.7.26～29

三重小学校

三重小学校では、子どもたちのために、よりよい学校経営をしようと本年度、学校教育目標の改善に取りこんでおります。そのために、あらゆる角度から検討中ですが、その資料のひとつとして、父母の皆様方のお考えをお聞きしたいと思いますので、是非とも、下記のアンケートにご協力くださいますようお願い致します。

このアンケートは、無記名でけっこうです。

1. あなたのお子さまは、三重小の何年生ですか。○でかこんでください。(2人おりましたら、2つ○でかこむ)

1年, 2年, 3年, 4年, 5年, 6年, ()

2. あなたのお子さまやご近所のお子さまをござらんになって、家庭や学校で、特に取りあげて、指導すべきだと思うことをお聞きします。

下記の番号のついていることがらについて、現状は良いが、もっと伸ばしていくべきだと思うものにはAと記入し、現状は良くないので、これから伸ばしていきたいと思うものには、Bと記入してください。(タイプのらんに記入してください)

タイプ		こ	と	が	ら
B	A	1	生きものを大事にし、生命を尊ぶことができる。		
B	AB	2	進んで自然に接し、自然の事物を利用して遊ぶことができる。		
D	AB	3	自然に対して、驚きや親しみを感じるとともに、感謝の気持ちをもつことができる。		
B	B	4	ものごとを最後までやりぬくことができる。		
B	AB	5	約束を守ることができる。		
B	AB	6	きまりを守ることができる。		
B	A	7	だれとでも仲良くすることができる。		
B	A	8	祖父母を大切にすることができる。		
B	B	9	進んで家事の手伝いができる。		

タイプ 市 三重	こ と が ら
B B	10 自分で使ったところをきれいにするために、進んで掃除をすることができる。
B B	11 机の上や身のまわりの物を使いやすく整理することができる。
B B	12 後仕末をきちんとすることができる。
D B	13 むいだ靴などをそろえておくことができる。
B A	14 学校の始業時刻に遅れないように起床することができる。
B A B	15 小づかいの使い方を計画することができる。
D A B	16 放課後の時間の使い方を自分で決めることができる。
B B A	17 大人から注意されなくても、ひとから信頼されるような行動をとることができる。
B B	18 困ったことにぶつかっても、冷静にその場で処理することができる。
D A	19 興味あることに集中することができる。
C A B	20 親から離れても、ホームシックにならずに生活することができる。
B B	21 失敗から立ち上がるには、どうすればよいかを言うことができる。
C A B	22 仲良くするには、どんな心掛けをすればよいかを言うことができる。
C B	23 自分中心に考えた行動で、失敗した事例をあげることができる。
D A B	24 自分の心をおさえて(がまんして)友人関係がうまくいった事例をあげることができる。
B A	25 欲しいものがあってもすぐ手に入れることをがまることができる。

以下35項目にわたって回答を求めた。

アンケート調査の集計

35項目にわたるアンケート調査結果は、コンピュータ処理により集計した。次ページはその一部である。

1. 現状は良いが、もっと伸ばしていく。
2. 現状は良くないので、これから伸ばしていく。
3. 空欄

ゼンイン ゼンニンズウ・430

モンダイ * 1 生きものを大事にし、生命を尊ぶことができる。

1	344	80%	
2	76	17.7%	
3	9	2.1%	

モンダイ * 2 進んで自然に接し、自然の事物を利用して遊ぶことができる。

1	222	51.6%	
2	185	43%	
3	23	5.3%	

モンダイ * 3 自然に対して、驚きや親しみを感じるとともに、感謝の気持ちをもつことができる。

1	217	50.5%	
2	191	44.4%	
3	22	5.1%	

モンダイ * 4 ものごとを最後までやりぬくことができる。

1	157	36.5%	
2	259	60.2%	
3	14	3.3%	

モンダイ * 5 約束を守ることができる。

1	237	55.1%	
2	173	40.2%	
3	18	4.2%	

モンダイ * 6 きまりを守ることができる。

1	221	51.4%	
2	186	43.3%	
3	23	5.3%	

モンダイ * 7 だれとでも仲良くすることができる。

1	287	66.7%	
2	127	29.5%	
3	13	3%	

モンダイ * 8 祖父母を大切にすることができる。

1	323	75.1%	
2	81	18.8%	
3	25	5.8%	

モンダイ * 9 進んで家事の手伝いができる。

1	127	29.5%	
2	285	66.3%	
3	17	4%	

モンダイ * 10 自分で使ったところをきれいにするために、進んで掃除をすることができる。

1	88	20.5%	
2	334	77.7%	
3	7	1.6%	

モンダイ * 11 机の上や身のまわりの物を使いやすく整理することができる。

1	119	27.7%	
2	293	68.1%	
3	18	4.2%	

三重小学校教育目標

教育目標	努力目標	市教育目標との関連	学校経営目標方針	努力点
豊かな心で、思いやりのある子ども	(4) あたたかい心で、人に接することができる。	⑳ 24 32	略	① だれにでもあたたかい気持ちで接することができる。 ② 明るくはきはきと行動することができる。 ③ 広い心で人のあやまちを許すことができる。
	(5) 友だちと互いに協力することができる。	㉑ 13		① 自分の気持ちをおさえて、友だちと協力しあうことができる。 ② 相手のよい所を見つけて生活することができる。 ③ きまりを守って行動することができる。
	(6) 自然や文化に親しみ、感謝の気持ちをもつことができる。	㉒ ① ② 39		① 生きものを大事にして、生命を尊ぶことができる。 ② 地域の行事に関心をもち、進んで参加することができる。 ③ 祖父母や目上の人に敬意を持って接することができる。

※ 教育目標は、2 についてのみ掲載。実施内容・方法の項目中、アンダーラインのあるものは、地域に根ざす教育活動に直接つながるものである。

実 施 具 体 策	
内 容 ・ 方 法	企画・推進
ア 対面式などで新入生を喜んでむかえるようにさせる。	行 事（儀式）
イ 卒業式などでお世話になった人々に感謝の気持ちを持たせる。	〃
ア <u>あいさつ運動を通して心の交流をはかるようにさせる。</u>	児 童 指 導 P・成人教育部
ア 道徳の授業などを通して人のあやまちを広い心で許すことができるようにさせる。	道 徳
.....	
ア 児童集会を通して集団への所属感や連帯感をいっそう深めるようにさせる。	児 童 会
イ クラブ活動を通して協力して活動できるようにさせる。	ク ラ ブ
ウ グループ活動において友達と協力しあうことができるようにさせる。	各 担 任
ア ふれあいの時間の中で、友達のよい所を見つけあって仲よく過ごすことができるようにさせる。	教 務
イ 各種の反省会で友達のよい行いを認めあいはげましあうことができるようにさせる。	各 担 任
ア 「三重小のきまり」を守って生活することができるようにさせる。	児 童 指 導
イ 道徳の授業などを通して、きまりや規則を守ろうとする態度を育てる。	道 徳
.....	
ア 動植物の飼育栽培をすることによって生きものを大事にさせる。	環 美（校外）
イ 道徳の授業などを通して、動植物の生命を尊び自然を保護しようとする心情を持つようにさせる。	道 徳
ア <u>地域の伝統的行事に進んで参加させる。</u>	行 事
イ <u>町内行事や育成会活動に積極的に参加させる。</u>	育 成 会
ア 離任式・新任式を通して敬意をもつようにさせる。	行 事（儀式）
イ <u>運動会に祖父母をまねき、敬老の意をあらわすようにさせる。</u>	行 事（体育）
ウ 敬老の日の意味をよく理解させ、いたわりの心を持って接することができるようにさせる。	各 担 任

3 地域に根ざした教育の具現

(1) 教職員への指導

教職員指導は、校長の仕事の中でも最重要であると考える。

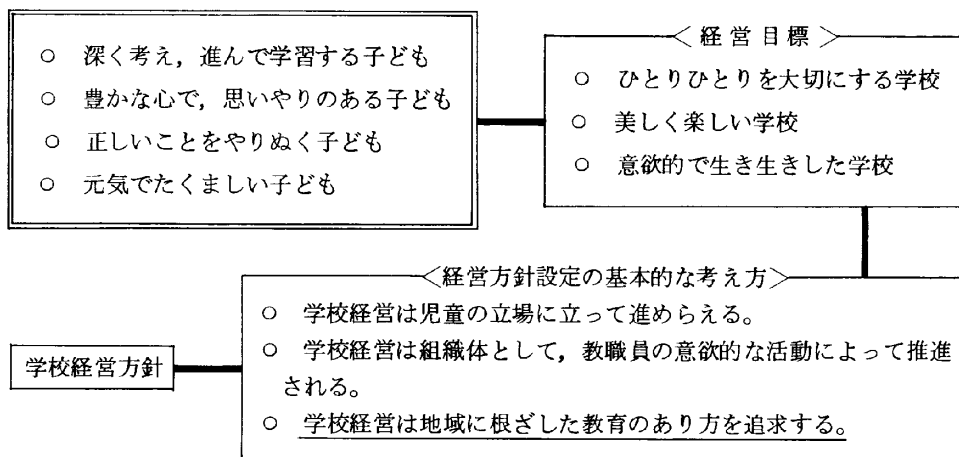
「花のことは花に問え」という教えもあれば、「負うた子に浅瀬を教えられる」の言葉もある。教育する者は、教育される者から学ぶことが、教育の原則である。私は三重小学校に着任したとき、校長といえど、私よりすぐれた人物が必ずやいるに違いないと思い、教職員をみつめた。私のモットーとする美点凝視という人間観は、そこに端を発している。私自身、これまで多くの自己啓発の機会を与えていただいた。佐藤前教育長さんの「石は、おき場所によって、生きてくる」の書を、教職員指導の基本においている。人は、チャンスによって生かされるのであると信じ、教職員一人ひとりのもてる良さが生きてはたらくようなチャンスを与える努力を惜しまないよう自分の心にいきかかせている。

私は、先輩に倣って年度始め等には、これからどんな歩みをするのだろうかとの期待にこたえる意味で、経営の姿勢などを明らかにするようにしている。次に、その2例を掲載する。

昭和58年度 三重の教育

S. 58. 4. 1 (金) 職員会議資料

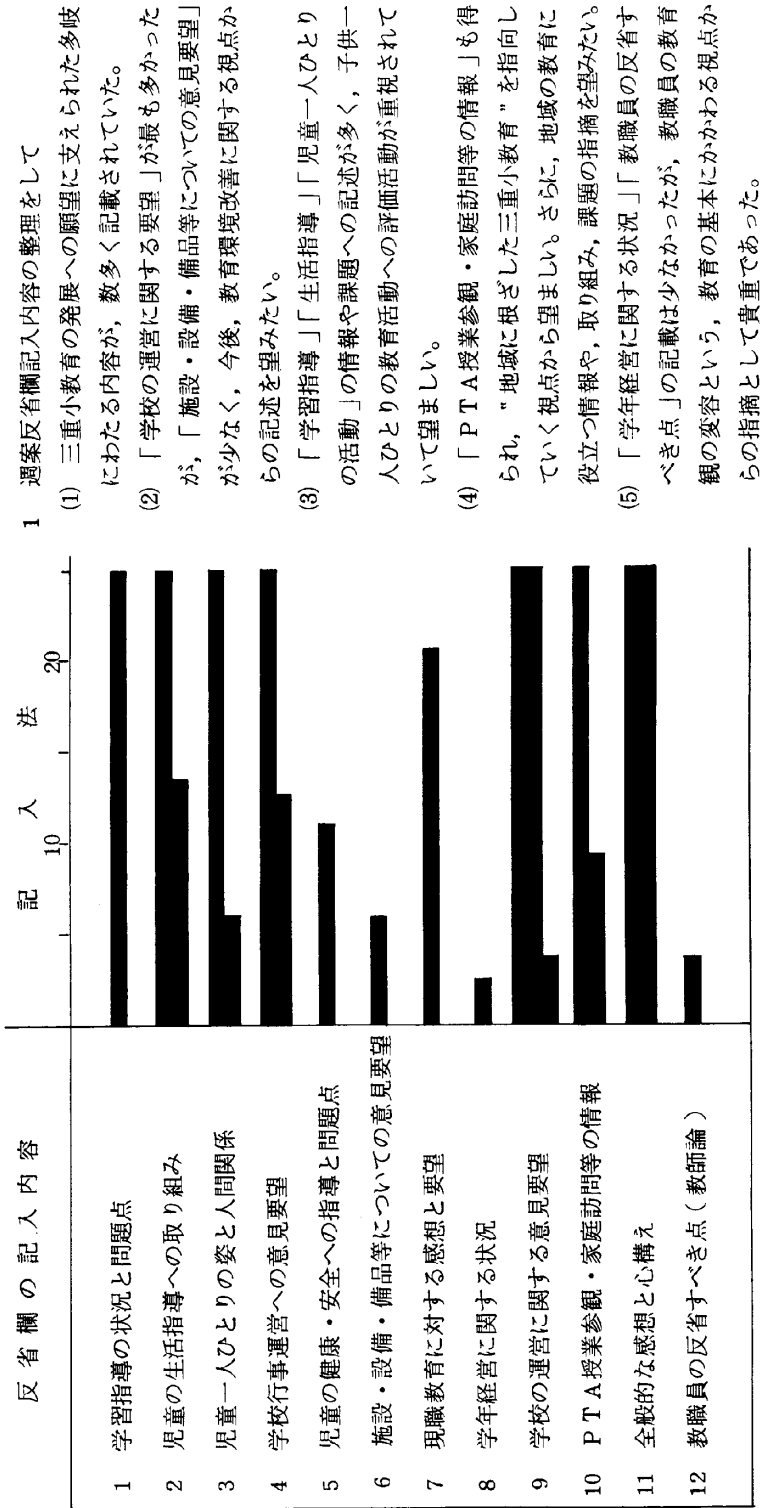
- ◇ **学校教育目標** 昭和56, 57年にわたり、足利市の教育目標から見直し、知・情・意・体の調和と統一のとれた児童の育成を旨とし、具体像を設定した。



- 1 創立110年の伝統を重んじ、「温故知新」を心として、善美な校風の高揚に努める。
- 2 組織体としての学校を確立し、仕事を通して和と協力を図るよう努め、学校経営の近代化の推進を図る。
- 3 校内現職教育等の研修を通して、専門職としての教師自身の成長発展に努める。
- 4 教材・教具の整備活用に努めるとともに、環境の美化の促進に努める。
- 5 学校・家庭・地域社会との提携協調を図り、地域の信頼の上に立った教育に努める。

本年度の重点課題等…略

週 案 反 省 欄 記 入 状 況 [5 5 年 1 学 期]



1 週案反省欄記入内容の整理をして

- (1) 三重小教育の発展への願望に支えられた多岐にわたる内容が、数多く記載されていた。
- (2) 「学校の運営に関する要望」が最も多かったが、「施設・設備・備品等についての意見要望」が少なく、今後、教育環境改善に関する視点からの記述を望みたい。
- (3) 「学習指導」「生活指導」「児童一人ひとりの活動」の情報や課題への記述が多く、子供一人ひとりの教育活動への評価活動が重視されていた望ましい。
- (4) 「P T A 授業参観・家庭訪問等の情報」も得られ、「地域に根ざした三重小教育」を指向していく視点から望ましい。さらに、地域の教育に役立つ情報や、取り組み、課題の指摘を望みたい。
- (5) 「学年経営に関する状況」「教職員の反省すべき点」の記載は少なかったが、教職員の教育観の変容という、教育の基本にかかわる視点からの指摘として貴重であった。

2 地域に根ざした三重小の教育を指向した具体的な提案を

それぞれの職員がおかれた立場(学年・学級・校務分掌等)の実践から、問題提起を2学期終了の時点で。
(提案はソフト、ハード面から理由を明確にして)

三重小学校が大規模校であることから、私は担任等との対話を、週案の反省欄を利用してきた。毎週、月曜日に提出される週案に目を通し、私の考え方など朱書きをして交流を図っている。地域に根ざす教育にかかわる記述の一例を掲載する。この週案反省欄の記述内容を、毎週教務主任が紹介している。

指 導 記 録 ・ 反 省	時 数		
	学級	実施	累計
町内懇談会を企画して			
現在、「家庭学習あって家庭教育なし」と家庭における教育機能の低下とその反省ムードが盛り上がりつつあります。特に「子供の教育」に対する父親のかかわりが「父親の出番」として呼ばれています。高学年においては、父親のかかわり方次第で、子供の歩む方向も大きく変わりつつあります。こうした意味からも父親参加の町内懇談会を開催することは大きな意義があると思います。「やってよかった。」と言える懇談会にしたいと思います。こんなところから、地域との連携プレイも深まるものと考えます。私にとっては「地域に根ざした教育」の(第1ステップ)だと考え、実践していきたいと思っております。	3-2	4	37
	3-3	3	31
	4-2	4	38
	4-4	4	38
	5-3	3	35
「その通り、綿密な新しい企画に先生の力量を期待したい。」			
	計	18	179

校長の考え方を、直接子供に伝える場に朝礼などの校長講話がある。私は、子供を通して地域にまで及ぶように、地域にその素材を求めるなど、子供に感動をよぶような講話に取り組んできた。教育活動であるという観点から、年間計画も作成した。講話内容とともに、講話に臨む校長の姿勢が、教職員の授業に立ち向う構えにも影響するのではないかと考えたのである。

下記の講話メモは、その一例である。

朝 礼 講 話	チャノキの話	5 8. 12. 19
1 「郷土三重見聞録」 をみせて (袋から取り出して)	1 この本をみたことのある人は、(挙手) (書名を知らせる。)	
	2 校長先生が読んだら、こんなことが書いてあった。P 3 1 お茶の木を植えて、茶摘みをした。	
	3 今もお茶の木があるのだろうか。残っているだろうか。さがしてみた。	
2 茶の木を再び袋から 取り出す	4 ありました。これがチャの木です。 今から70年以上も昔、生えていたチャノ木が今もあるのはふしぎではありませんか。…実でふえるのかな。どんな実かな。	
3 茶の実を袋から取り 出す	5 チャノ木には、こんな実が成ります。きっと、この実がこぼれて生え残ってきたのでしょうか。(この実は去年咲いた花に実のったもの。)	
4 三重の誇り	6 三重の山のチャノ木が、これからもずっと育っていくようにしたいもの。この間の金曜日6年生が山をそうじしてくれていました。ありがとう。	

朝礼講話と同様、卒先垂範による経営の取り組みとして、「今月の言葉」— 校長は語る—
がある。この言葉を校長室に板書するまでには、校長としての考え方や、構えをどう打ち出すか
苦吟する。その一端を、これまでの4年間の「1月の言葉」から、掲載する。

五十六年の新春を迎えて

「自己の修養と児童の心情を基にして教
育の道にご精進を……。」

小学校時代の教師からの賀状の一節。四十
年も経てもなお、教え子の学校経営に思いを
寄せ、教育の本道を説く老師の愛に、

五十六年の三重小教育に取り組み構えをただ
された思いがした。

「教師の変容が子供の変容を導くことを仮説
とし、一千余名の児童ひとりひとりの中に、
そのあかしを求めていこう。」

五十七年 年頭のことば

地域に根ざす教育への躍進へかけるのに新校舎の落成はよ
い機会と感謝しながら新春を迎えた。

古き良き伝統を育んだ旧三重中校舎との心のつながりを、
子供たち一人ひとりの心にどのように刻みこんでやったらよ
いのだろうか。

新装なった三重小が、学校教育としての役割を果たしながら
も、地域に聞かれた学校として、子供の全体的発達を促す
ような教育の場の設定に、どう取り組んだらよいのだろうか。
これらの実践は、すでに芽生えている。同和教育における
父母啓発、鎌倉市の子供との交流、あいさつを中心としたふ
れ合い運動など……。

さらに本年は新校舎落成記念行事、加えて、県の視聴覚教
育研究大会々場校の一つとして学校公開も。

ともあれ、五十七年の一年間を充実したものにすべく、教
職員、PTA、地域の方々の実践に感謝しながら、創意と努
力を傾けていきたい。

賀状に心新たな五十八年を迎えて

初便りふたりに未来あるばかり

文子

賀状に幸せを祈る心を、教え子の便りに見出す。鎌倉二小の戸口校長から「両校の子供たちの心の輪が、しっかりとつながるよう……」の便りにも子供たちの澄んだ目を思いやりながら、未来を夢みる。

そのためには、まず、自らの折り目を正すことから始めよう。「人一度してよくすれば、己は百度す。人十度してよくすれば己は千度す。果してよくすれば、愚も必ず明、柔も必ず強なり。」

との「中庸」の言葉に、自らの実践への決意を質される思いである。

この一年間、三重小の子供たちのために、己れの意志力を試していこう。

一月は同和教育。二月は新校舎落成記念行事。三月は巢立ちの月。

めまぐるしく過ぎ去る三学期。

子供たちが学校生活への充実感に浸れることをめざして着実な歩みを続けたい。

三重小百十一年の新春を迎えて

元旦の早朝、大岩の毘沙門さまに初もうでした。日本三大毘沙門天の一つに数えられる名刹は我が三重の誇りである。そのためか初もうでする人たちの中に、三重小児童の親子連れに会う。

社を囲む樹々の中に、いくかかえもあるような樹齢六百年余を経た杉の老大木がある。その老杉の下曲がりの枝を、初空をみるような気持ちでみてみると、この大岩の毘沙門さまを祈ってきた人々の熱い願いが伝わってくる。そこにまた歴史の重みをも感ずるのである。

三重小も百十一年目の歴史を創る年を迎え、地域の人たちの心の温もりがしみとおるような学校にしたいと念じた。

三重の家並みの中に三重小が、初富士を遠望する自然にすっかり溶けこんでいる。昨夜までのけん騒がうそのような感じの山を、一気にかけておりた。

初富士の紅さしそめて町の上

のぼる

(五十九年一月)

(2) 地域に開かれた学校に

学校が閉鎖的であると、父母たちとの連携も薄くなりやすい。そこには教育の基盤である信頼関係は育たない。それでは、地域に根ざす教育もいいうべくもない。そこで、開かれた学校と、各教育機能の連関をめざしての取り組みをすすめた。

ア 教育施設の開放 (校庭・体育館)

祝酒といえど、子供の学ぶ学校での酒は絶つことを堅持し、学校秩序の正しい道しるべを示しての、施設の有効な活用をすすめた。

イ 町内懇談会の開設

日ごろ学校教育の姿にふれることの少ない父親に参加しやすいように、地域に向向いての夜間の膝を交じえての話し合いは、相互理解が得られた。

ウ 家庭教育目標づくりと、その実践

長期休業をチャンスに、「学校長の宿題」の形で、子供と親の話し合いで、家庭生活の目標を決め、その実践した様子が、校長への便りという形で報告された。

エ P T Aの協力

三重のよい子の像の建立、「三重見聞録——110年の歩み」の発刊等。

オ 郷土かるた

子供たちに、三重の地域の良さを学びとらせるために、かるたづくりを、登校班組織による子供たちが行い、かるたとりゲームを実施した。

カ 鎌倉第二小学校との交流

子供たちの積極的参加を促し、感動、感銘の得られる修学旅行、そして、わたしたちの町づくちの学校という所属意識が目覚めるような修学旅行をめざして、旅行先の学校との交流体験を取り入れた。この交流が、子供たちに郷土の良さを見直すことに大いに役立った。

おわりに

地域に根ざす教育への道は、「足利市の教育目標」の具現化をはかる壮大な仕事である。それは、以下列挙する、今後の課題をみても感じられる。校長として、これらの課題にどこまで取り組めるかが、さらに課題となるところでもある。

<今後の課題>

- 1 空き教室を利用し、コミュニケーションルームとしたり、校庭に続く、プール利用の拡大。
- 2 学校跡地を利用し、自然観察や、森林浴のモデルなどの場とする。
- 3 郷土三重の資料の教材化と、子供たちに自己教育力を育成していく。
- 4 三重小学校教育諮問委員会の設置をする。
- 5 三重地区住民の地域教育計画策定をすすめる。

主題に取り組んで4年になるが、果たしてどれほど子供を変え、どれほどの実績を挙げたかとなると、まことに忸怩たるものを感じる。末尾となったが、経営実践に有形・無形のかたちで、たくさんの方の御支援、御協力をいただいた。心から感謝の意を表したい。

本市に生涯教育の立場にたった「足利市の教育目標」が設定されてから、地域社会と学校経営という視点からの実践が以前よりも真剣に考えられ、多様な努力が積み重ねられてきている。

小学校の教育は、児童に対して、一生を通じて行われる人間形成の基礎として必要なものを共通に修得させ、国民として必要な基本的資質を養うとともに、個性の伸長を目指して行うべきものである。小学校がこのような使命を果たすためには、各小学校では、児童の人間形成に大きな影響を及ぼしており、児童にその将来を託している地域社会に無関心であってはならない。

三重小学校長としての4年間にわたる学校経営実践記録は、まさにこの考え方に立脚したものであり、地域に根ざした教育の全体構想のもとで、子供たちに地域の良さを理解させ、地域をさらに発展させようとする意欲を身につけさせようとした貴重な提言でもある。

そのために先ず美点凝視という人間観からの教職員指導をあげ、次に地域に根ざす学校経営は、学校と地域社会との信頼・協力の関係を確立することであるということから、教育施設の開放、町内懇談会の開設、鎌倉第二小学校との交流等の諸施策を講じながら本市教育目標の中でも強調している各教育機能の連関を図っての取り組みをしている。

今年度は「足利市の教育目標」が設定され三年間が経過したことになる。勿論この三年間の経過の中で各小中学校とも本市の教育目標を十分理解した上で、日々の教育実践が展開されているわけである。各校におかれましては、生涯教育を指向した学校経営実践記録として大いに参考にされるようお願いしたい。